

# 勇気

courage

Founding  
50th  
Anniversary

# 夢

dream

# 挑戦

challenge

## 「インタビュー」理事長が語るゆうわ会の50年と未来

理事長 竹内 一

「社会福祉法人 ゆうわ会」の創設期の話をお聞かせください。

ゆうわ会の創設者である、故竹内三之助と操治は、私の祖父と父です。祖父は私が小学校1年に上がる時に亡くなりましたが、もともとは大工の棟梁で頑固一徹、明治の男で職人気質、仕事には徹底して厳しい人だったと聞いています。でも、体に流れているものはカトリックの精神。祖母の祖先は浦上四番崩れで迫害を受け津和野に流されたあと戻ってきた経験もあり、2人とも深甚なる信者でした。カトリックの精神で自治会長や民生委員をした中で、福祉事業にも出会いがあつたと聞いています。父は昭和6年生まれで、14歳の時

に浦上地区で原爆に遭いましたが、奇跡的に助かりました。それから長崎工業高校に進学し、卒業後は父親の仕事を手伝っていました。最初の施設である竹内保育園（現さくら保育園）は、祖父と父の二人でつくったものです。

きっかけは、祖父が三原地区の自治会長をしていた昭和40年1月、寒風の中、幼い子どもを連れて仕事をしている親子の姿を見て「なんとかしなければならない」と思っていたところ、地域住民の皆様からこの地区へ保育園の設置の要望を受けたことに始まります。

昭和30年代から年代にかけては戦後の復興期が終わり、高度経済成長期の真っ只中でした。次第に社会も豊かになりつつありました。特に地域の保育施設の設置はかなり遅っていました。特に祖父と父が生まれ育った浦上地区は、長崎市内の大きなベッドタウンでかなり人口が増えていたにもかかわらず、公立の長崎市立保育園は2カ所だけ。働きたいのに子どもを預ける場所がないという待機児童の問題はすでに昭和40年代初頭から始まっていたのです。地域住民の皆様が「子どもを預けないと仕事が出来ない」と嘆く姿を見た



竹内保育園開園当時(現さくら保育園)

保育事業を通して地域の児童の健全育成に情熱を傾けていたころ、長崎市の本尾に浦上学園という知的障害児の入所施設がありました。創設者の本業は建設業だったので、その仕事の関係で、浦上学園が閉園となり解体する工事を県から請け負ったのがきっかけです。その時、当時の園長先生から、長崎県内には多くの知的障害者がいるが、児童入所施設を卒業して社会に出ても仕事がない、住むところもないという

ことを聞き、大変大きなショックを受けたそうです。そこで創設者は「よし！社会福祉法人を立ち上げて保育園を作ろう！」と決意したのです。たまたま三原地区に200坪程の土地を所有してお

り、その土地と建物をそつくり社会福祉法人に寄付をして竹内保育園ができました。現在は「さくら保育園」に名称が変わりましたが、その「さくら保育園」を筆頭に昭和46年「もとお保育園」、昭和48年「みはら保育園」、昭和54年「にじやま保育園」と、地域の皆様のご要望をふまえ、ニーズに合った支援をしていくことで保育園を順次設立しました。

祖父は、これをどうにかしなければならないと考え長崎市の担当課に申し出たそうですが、長崎市も作りたいが予算がないという返事。しかし、その相談をする中で長崎市の職員の方から社会福祉法人を立ち上げると保育園をつくることが出来るとのアドバイスを受けたのです。そこで創設者は「よし！社会福祉法人を立ち上げて保育園を作ろう！」と決意したのです。たまたま三原



竹内学園開園当時(現ながさきワークビレッジ)



竹内操治



竹内三之助



昭和41年2月17日



# 谷間に光を共に生きる

その後、利用者が徐々に増えてきて、重度高齢者の皆さんとの支援もしなければならないということで、昭和58年に「サンビレッジ」、地域で働く方の夜の住まいを確保するということで平成3年に「ライフステーションすばる」など、17の施設を開設しました。平成元年12月には天皇陛下より優良民間社会福祉施設として御下賜金を受け賜わりました。

入所・授産施設の「竹内学園（現ながさきワーケビレッジ）」が昭和46年7月に開設したのです。



昭和46年4月11日 読売新聞



平成元年12月23日



平成7年頃

東長崎に計画中の施設は？

サンビレッジの移転建て替えを計画しています。サンビレッジは建設から30年以上たっており、耐震性の問題および施設内部も老朽化し段差があります。当時の若い利用者が高齢になってきて車椅子の方も多くなっている状況にあり、バリアフリーに対応した快適な生活ができる安全な施設が必要なため、障がいの方の老人ホームというイメージで計画中です。

東長崎地区の約2000坪の土地に、サンビレッジの建物の他、ミニゴルフ場やテニスコートも作る予定です。知的障がい者だけのスペシャルオリンピックスという大会もありますし、職員たちにも家族で利用してほしいと思っているほか、地域にも広く開放する予定です。これから社会福祉法人は地域貢献といわれています。地域の皆様にお役に立てる社会福祉法人を目指すため、スポーツ関係を含めた地域開放をやっていきたいと思っています。

理事長としての今後の取り組み、意気込みをお聞かせください。

近年、社会福祉法人を取り巻く環境は大きく変わりました。昨年3月に行されました社会福祉法人改革は社会福祉法人の公益性を徹底する観点から、ガバナンスの強化、事業の透明性、財務規律の強化、公益事業への取り組みが求められています。今まで以上に社会貢献が重要となり、法人、事業所、地域が一体となり事業展開をする必要があります。当法人としましても事業の透明性を確保し、地域福祉の核となる地域にお役に立てる法人になるよう努めています。当法人としても事業法律もどんどん変わってきていますから、障害者の方が自立して地域で生活できるまちになるように今後も努力していくきます。これは永遠の課題ですが、やはりそこを目標にしてやっていきたいですね。

創立50周年を迎えるにあたり、今をゴールと見据えるのではなく、次の100周年へ向けた大切な通過点とし



て捉え創設者の理念を確実に受け継いでいく所存です。

時を経ても変えてはいけないもの。そんな普遍な思いを持ち続けながら時代ごとに添って変えていくこと、変化することを恐れず果敢に勇気を持つて挑戦していく「ゆうわ会」を目指したいと思います。また職員と共に更なる研鑽を積み、園児の皆様や施設利用者の皆様が心身共に健やかに育成され、自立した日常生活を地域社会において當むことができるよう全身全霊で支援していきます。そんなゆうわ会の未来に、今後ともご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。